

◎幼児保育学科の3つの方針

《学位授与方針》(ディプロマポリシー)

厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、短期大学士（保育学）の学位を授与する。

- ① 修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決することができる。
 - ② 職業生活、社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力を身につけている。
 - ③ 自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる。
 - ④ 保育の専門職として専門分野の幅広い基礎知識と実践力を有し、実践の場で具現化していくことができる。
 - ⑤ 以上4つの能力の修得を基盤として、コースごとに次に挙げた能力を修得している。
- 表現・音楽コース：自己を表現することと目標を完遂することに積極的な意欲を有する。
 - 心理・環境コース：多様な体験と交流を通して、他者への共感と自ら学び取る態度を身につけている。

《教育課程の方針》(カリキュラムポリシー)

子どもも人格を持った一人の人間であることを心に留め、子どもの成長を助けるための専門的な知識・技能・実践を備えた幼稚園教諭、保育士の養成を目的として、その実現のためのカリキュラムを編成する。

- ① 一般教育科目では、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人間性の育成を図る。
 - ② 専門教育科目では、幼児教育者としての専門知識や実践的技術を体系的に修得できるようカリキュラムを組み立てる。
 - ③ その上で、「表現・音楽コース」と「心理・環境コース」の2コースを設け、個々の学生の多様な関心や目的を尊重し、支援するための学習カリキュラムを編成する。
 - ④ 1年生と2年生の「学び合い」による学生自身の主体的な自己表現・自己成長を促す機会を創出することを基本姿勢として重要視する。
- 「音楽・表現コース」では、ダンスや音楽に関するコース専門科目を設け、それらの学びの集大成としての「実技発表会」を通して、演奏・表現技術の向上と創意工夫する力、自らの学びの目標を具体化することで個々の課題に立ち向かう意欲と、完遂することでの達成感の享受を目指す。
 - 「心理・環境コース」では、幼児期からの環境教育に寄与する人材と、地域の乳幼児とその保護者の子育て支援が実践できる人材の育成を目指し、体験型のコース科目を設ける。それにより、保育現場での現代課題に対応する力量と、自ら感じ、学ぶ態度を身につけ、他者及び環境に対する共感力・感受性を育成する。

《入学者選抜方針》(アドミッション・ポリシー)

将来、保育所、幼稚園、福祉施設において、保育に関する専門知識・技術を基盤として、児童の保育及び保護者に対する保育に関する指導を行うことができる保育者を育成するために、次のような能力、意欲、態度を持った学生を受け入れることを基本方針とします。

- ① 他者（特に、子ども）との交流に積極的であり、且つ共感することができる人。
- ② ボランティア活動や職業体験に積極的に参加した経験を有する人。
- ③ 自己の多様な体験をふりかえり、それを表明・省察することができる人。